

東北高校陸上部

電機店と喫茶店は相性がよいそうだ。貸してあった店を引き継ぎ、妻が営業していた頃、東北高校陸上部は黄金時代で、宮城県大会では多くの種目に優勝していた。

すぐ近くの宮城野運動公園、陸上競技場のサブトラックを借り、東北高校陸上部の生徒達は、放課後毎日やってくる。妻の店で腹ごしらえをし、トラックに行き、暗くなるまで。走り回り帰って行く。

だんだん顔なじみになり、我が家で着替え、練習に出掛ける。学校からは自転車でも十分はかかる。放課後だから早い日、遅い日マチマチだ。土曜日は昼過ぎやってくる。

八畳にカバンを放り投げ、学生服を丸め、運動着に着替え、靴を履き替え、帽子を替え、店でパンや牛乳で腹ごしらえ、すっかり変身して、グラウンドに行く。

帰りはこの反対の動作だ。食品は勝手にショウケースから出して食べて一人々々料金を計算して置いて行く。食べ過ぎてお金が足りなくなつた生徒も居るが、翌日必ず持つてくる。お金の事で間違つた事や、トラブルは一度もなかった。

十人ほどの生徒だった。運動着類は頼んで置いていく。妻は時々、運動着を洗濯してやった事もあると言っていた。

その中から、オリンピックの選手がでた。今でも年賀状をやり取りしている、油井潔雄さんだ。その時は、妻は「いつもお世話になつているおばちゃん」として、新聞記事になった。

近くの子供のない佐々木さんから、子供同様に世話したいから、下宿を世話して呉れませんかと頼まれ、生徒の中から、その油井さんと、伊藤さんを紹介、下宿する事に決まった。

二人とも長身で、礼儀正しい生徒だったから、佐々木さんに喜ばれ、いい人を世話して戴いたと感謝された。広い家に二人だけの下宿人だから、親身になり世話したのだろう。二人とも卒業まで世話になり、長く付き合っていたようだ。

二朗が交通事故に合い入院した時、東北高校陸上部一同として、お見舞いを戴いた、二朗が二才の時である。

東北高校にもグラウンドが出来た頃、我が家でも、喫茶店を廃業した。どうか電機店だけで、生活できるメドが付いたからだ。

その時の生徒とは、今でも付き合っている人が多い。学校の先生、会社の社長、警察官幹部、皆立派な人物になっている。神主になった人が居た。裏の古家を解体した後に御被いをしてもらった。風の便りに聞けば、神主さんは亡くなったそうだ。

平成十四年十月二十日